

## ▼レベスティブ皮下注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 テデュグルチド遺伝子組換え Teduglutide 【分類】 短腸症候群治療薬 [GLP-2 アナログ]

【単位】 ▼3.8mg/V

【常用量】 1日1回0.05mg/kg

【用法】 皮下注（腹部、大腿部、上腕部のいずれか）

添付の注射用水0.5mLで溶解し、0.38mLが利用できる（3.8mg相当）

【透析患者への投与方法】 保存期CKDの用量に準ずる（5）

【保存期CKD患者への投与方法】 CCr 50未満：1回0.025mg/kg（1）

【特徴】 遺伝子組換えヒトグルカゴン様ペプチド-2（GLP-2）類似体。GLP-2は腸管内分泌細胞（L細胞）から分泌され、栄養分の吸収促進並びに腸管粘膜の維持及び修復に寄与している。

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

【F】 87.1% [sc]（1）

【tmax】 3hr（1）

【代謝】 加水分解される（1）肝代謝を受けない（1）

【排泄】 おそらく腎で代謝される（5）P-gpの基質ではない（1）

【CL】 約123mL/hr/kg（1）CL/F=0.228L/hr/kg [sc]（1）

【t1/2】 1.1hr（1）

【蛋白結合率】 79～94%（1）

【Vd/F】 0.348L/kg（1）

【MW】 3,752.08

【透析性】 資料なし（1）除去されにくいと思われる（5）

【O/W係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】 臨床的反応性の予測因子に関する解析（Chen K, et al: Clin Nutr ESPEN 2021 PMID: 34024550）

【更新日】 20211204

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。